

地方自治体が実施する e-ラーニング生涯学習講座

——その課題と展望——

西 岡 正 子

【抄録】

一定水準の内容をもち、更新し、継続的な配信をしている4自治体を実施するe-ラーニングの生涯学習講座を分類・分析した結果、以下の4点が明らかとなった。質を保ち、継続的に学習者を確保するためには、第一に教育委員会が運営の主体であること、第二に知事を学長とした大学形式をとり、第三に各自治体ならではの内容の提供、レポートによる評価を実施していること、第四に大学に模した単位授与および顕彰方法が実施されていることが必要とされる。また、ある自治体の生涯学習e-ラーニングの推移を追うことにより、自治体の生涯学習に対する施策の重要性が明らかになった。また、両研究から地方自治体の生涯学習e-ラーニング講座は、地方自治体の生涯学習に関する哲学が反映されていることが明らかになった。e-ラーニングによる生涯学習を推進するためには地域住民一人ひとりの生涯学習に対する認識と理解が求められる。

キーワード：生涯学習，地方自治体，e-ラーニング

I. 地方自治体が提供する e-ラーニングの機会

生涯学習の必要性和e-ラーニングの普及に伴い様々な講座が提供されている。本研究は、地方自治体が提供する質の高いe-ラーニング生涯学習講座の実態を明らかにし、今後さらに求められる学習機会の充実に向けてプログラムを分析し、プログラムの実態と質の担保に必要な要素を明らかにするものである。

2014年度、様々な市町都道府県がe-ラーニングと称した講座を提供している。都道府県単位では計7自治体が住民に学習機会の提供をしている。その中でも様式を整え継続的にプログラムを更新しているのは4自治体である。その内3つの自治体は更新が不十分であるので、以下の4自治体、北海道、青森県、鳥取県、大分県のプログラムを分析・考察する。

京都府に関しては「II. 京都府におけるe-ラーニングの変遷」においてその創生と歴史および現状と課題を分析・考察する。

現在プログラム内容において高い水準を維持した講座を提供し、継続して更新しているのは以下の4つの講座である。「道民カレッジ『ほっかいどう学 大学インターネット講座』」「あお

もり県民カレッジ『あおもり学インターネット講座』「とっとり県民カレッジ『トリピー放送局』」「おおいた学びの輪『インターネット教室』」である。

以下8つの特色を見いだすことができる。

1. いずれも運営母体は地方自治体、道県教育委員会である（表1参照）。4自治体とも教育に関わる分野を主体とし、更に、青森、鳥取、大分は社会教育に関わる分野が講座を運営している。また、北海道は公益財団法人が、青森も指定管理者が運営を実施している。

配信開始は2005年から2010年の間で、生涯学習の基盤の上にインターネットの活用が始まった時期であるといえる。

2. 4自治体の内、北海道、青森、鳥取は大学に関わる名称を使用し、大学レベルの内容を維持するように努めている。すなわち、北海道は「道民カレッジ」、青森は「あおもり県民カレッジ」、鳥取は「とっとり県民カレッジ」、大分のみが大学という名称が見られない。大学という名称を使っている3自治体は学長を知事としている。北海道はジュニアカレッジ、青森は子どもカレッジも設けている。ただし、大学と称していない大分においても以下に見ていくように、単位の認定、評価・顕彰は大学に模して実施している。

3. いずれの自治体も単位認定を実施している。各1講座につき1単位または2単位として受講者がレポートを提出することとし、フィードバックの確認をしている。北海道においては、優秀レポートは「受講生レポート集」に掲載し、レポートそのものを活用している。

4. 評価・顕彰においては、100単位、200単位と単位ごとにそれぞれの名称の付いた学士、修士、博士を出す等、まとまった単位で評価・顕彰をし、次への意欲をもたせている。最小単位から2000単位まで準備されている。ここにおいても、大学の単位授与形式および大学における学士・修士等の学位が用いられている。大学の名称を使わない県は、県名と「学びすと」を付けた名称を用いている。それぞれ学位取得者をホームページ上に掲載（北海道）、生涯学習フェア記念イベントにおいて県民カレッジ認定交付式の実施（青森）、開講式における単位取得者の表彰（鳥取）、また、認定証交付・賞のバッジ贈呈（大分）等と、単位の認定だけでなく、その成果を認識できる方法を工夫している。

5. 配信講座としては、表1に挙げたように、「道民カレッジ『ほっかいどう学 大学インターネット講座』」は、北海道の生活・文化・産業・自然等に関する講座を提供している。「格差社会の中の生活困窮者支援の現状～北海道における暮らしから～」 「北海道発”環境イノベーション～イカ墨の有効資源化への挑戦～」 「TPPと北海道農業～食の安心・安全へ向けて～」 「北海道のシマフクロウ～その生息を絶やさぬために～」 等である。

「あおもり県民カレッジ『あおもり学インターネット講座』」も、青森の歴史・文化・自然等を深く学ぶことができる。「あおもり特別学講座 青森県の民謡」「あおもりの自然 白神山地～世界自然遺産のブナの森～」 「我がふるさとあおもり 八戸三社大祭」「あおもりの先人 廣澤安任～青森県をつくった自主の民」等である。また、「元気青森人 Power Up コンテンツ」

にはキャリア教育の一環として児童を対象とした講座がある。

「とっとり県民カレッジ『トリピー放送局』」も鳥取県に関する歴史・産業・教育・自然に関する講座を提供している。「古事記神話の舞台としての因幡と伯耆」「ウエカツ水産のあなたの魚食べる力がニッポンを救う」「鳥取の教育—教育郷土史—」「ふるさとの風景が語りかけるもの」等である。全講座に字幕が付いている。

「おおいた学びの輪『インターネット教室』」も同様に、大分の歴史・文化・自然に関する講座を提供している。「中世の大分～室町時代～」「尾平鉱山の盛衰」「大分の文学散歩Ⅰ～小説・随筆の世界」「大分の水生生物～川編～」等である。いずれの自治体も、県（道）民として郷土への理解を深められるような講座を配信している。しかも、講座の内容は学術的なものが多く、学問としての追究に耐え得るものである。

6. 講座時間はそれぞれ30分、長くとも90分である。

配信講座数は、2012年度以前の講座を配信終了している北海道は15講座、青森68講座、鳥取36講座、大分73講座である。

7. スマートフォンの視聴は、北海道と大分が可能となっている。

北海道と青森は e-ラーニングオリジナルコンテンツがある。鳥取と大分は公開講座を収録したものであるが、e-ラーニング用に編集し e-ラーニング講座としての工夫を加えている。

8. これらに加え、各自治体の講座は様々な特色をもっている。例えば、北海道は講座資料を PDF でダウンロードできる。青森は「元気青森人 Power Up コンテンツ」として、職業・起業・働き方に関する講座や、様々な分野の専門的な職業に就いている人、県内企業の経営者、企業で働く社員等が講師となり自分の経験や職業について講義するコンテンツを配信している。鳥取は全講座に字幕を付けている。大分は YouTube を用いており複数の画面構成はできないが、動画中に講義内容を文字化した画像や資料画像を数多く挿入し、わかりやすい内容となるよう工夫している。

どの自治体の講座もそれぞれの地域に関する内容ではあるが講座の内容は学術的であり県（道）外の者が見ても興味深く学習でき、4自治体の講座とも学習者に対する様々な工夫がされている。また、北海道に関しては、PDFでの資料ダウンロード、レポート提出による単位認定、レポート作成のための講座勉強会の開催等、ただ視聴するだけでなく学習効果を上げるためのサポートや継続的な学習を促すための工夫を加えている。青森に関しては、「元気青森人 Power Up コンテンツ」というカテゴリを作っていること、またその中で様々な職業人がそれぞれの職業について語る等、子どもを対象としたキャリア教育にも力を入れている。鳥取に関しては、字幕が付いており視聴しやすい。大分は、e-ラーニングオリジナル講座は作られていないが公開講座を録画したものをそのまま配信しているのではなく e-ラーニング用に作成された資料画像が映し出され、字幕ではなく講師の話す内容を簡潔に文字にまとめて表示する等の工夫が見られる。また、大分の歴史・文化・自然の各分野それぞれ33講座あり、歴史で

あれば1回目に「歴史を学ぶということ」という導入講座を設け、続いて古代から現代まで順に配信されている。同様に文化・歴史分野も総合的、体系的に学ぶ構成となっている。興味のあるテーマのみの受講でも十分に専門性の高い内容であるが、このような講座の構成は順を追って連続受講したいという意欲をもつことができる。それぞれの自治体は多府県の者が視聴しても十分に生涯学習講座として学び得るものである。

以上のように、質を保ち、継続的に学習者を確保するためには、この4自治体が実施している重要ファクターとして、次の4つを挙げることができる。第一に教育委員会が運営の主体であること、第二に知事を学長とした大学形式であること、第三に各自治体ならではの内容の提供であること、レポートによる評価を実施していること、第四に大学に模した単位授与および顕彰方法が実施されていることである。

生涯学習およびe-ラーニングの概念は幅広く、学習と言い難いものも紛れ込む危険性がある

表1 地方自治体のe-ラーニング比較表（2014年12月1日現在）

	道民カレッジ「ほっかいどう学 大学インターネット講座」	あおもり県民カレッジ「あおもり学インターネット講座」	とっとり県民カレッジ「トリビエ放送局」	おおいた学びの輪「インターネット教室」	京都府「インターネット放送局 生涯学習講座」
運営	北海道教育委員会 公益財団法人 北海道生涯学習協会	青森県教育委員会 青森県総合社会教育センター（指定管理者：日本人材発掘・ビルネットグループ）	鳥取県教育委員会 社会教育課	大分県教育委員会 大分県立社会教育センター	京都府文化環境部 スポーツ振興課・文化政策課
配信開始	2006（平成18）年	2005（平成17）年	2010（平成22）年	2009（平成21）年	2006（平成18）年
単位認定	1講座：1単位 HPよりダウンロードした様式にレポートを作成して提出，優秀レポートは「受講生レポート集」に掲載	1講座：1単位 「学習記録用紙」に記入して提出	“未来をひらく鳥取学” 1講座：2単位 “生涯学習講座ビデオ” 1時間：1単位 「視聴ノート」に記録して提出	1講座：1単位 HPよりダウンロードした様式にレポートを作成して提出	なし
評価顕彰	・インターネット講座のみの受講では取得不可 ・学位取得者はHP上に名前を掲載される ・100単位「道民カレッジ学士」 ・200単位「道民カレッジ修士」 ・300単位「道民カレッジ博士」 ・1000単位「学長奨励賞」	・あおもり県民カレッジの全単位共通 ・毎年，生涯学習フェア記念イベントにおいて「あおもり県民カレッジ認定証交付式」を開催 ・100単位ごとに認定証の交付 ・200単位「県民カレッジ学士賞」 ・500単位「県民カレッジ修士賞」 ・1000単位「県民カレッジ博士賞」 ・2000単位「県民カレッジ学長賞」	・とっとり県民カレッジの全単位共通 ・毎年，“未来をひらく鳥取学”開講式において単位取得者を表彰 ・100単位ごとに奨励証の交付 ・200単位かつ“未来をひらくとっとり学”修了（年間10回の講座をすべて受講した者）「とっとりマナビスト」 ・1000単位，2000単位「奨励賞」	・おおいた学びの輪の全単位共通 ・取得単位に応じた認定書交付と“おおいた学びすと賞バッチ”贈呈 ・50単位「おおいた学びすと☆星」 ・100単位「おおいた学びすと☆☆星」 ・200単位「おおいた学びすと☆☆☆星」 ・300単位「おおいた学びすと☆☆☆星」 ・500単位「おおいた学びすと☆☆☆星」	なし

地方自治体が実施する e-ラーニング生涯学習講座（西岡正子）

	道民カレッジ「ほっかいどう学 大学インターネット講座」	あおもり県民カレッジ「あおもり学インターネット講座」	とっとり県民カレッジ「トリピー放送局」	おおいた学びの輪「インターネット教室」	京都府「インターネット放送局 生涯学習講座」
配信講座	「格差社会の中の生活困窮者支援の現状～北海道における暮らしから～」 「北海道発」環境イノベーション～イカ墨の有効資源化への挑戦～ 「TPP と北海道農業～食の安心・安全へ向けて～」 「北海道のシマフクロウ～その生息を絶やさぬために～」 「すべての人に優しいまちづくり～私たちの生活と UD～」 「北海道の子どもたちの“こころ”の揺らぎと成長」 「コミュニティ・カフェが北海道を変える？～地域が元気になるために～」 「健康寿命が短い北海道～働き盛りに見直したい労働衛生～」 等	＜あおもり学特別講座＞ 「青森県の民謡」 「青森県の古代文化、 「福祉とリハビリテーション」 「遠藤周作の医療観」 等 ＜あおもりの自然＞ （全国自作視聴覚教材コンクール社会教育部門入賞作品） 「白神山地～世界自然遺産のブナの森～」 等 ＜我がふるさとあおもり＞ 「八戸三社大祭」 等 ＜あおもり県の先人＞ 「廣澤安任～青森県をつくった自主の民」 ＜元気青森人 Power Up コンテンツ＞ 「『若者よ、夢を持って～起業するためには～』 「青森県の生涯学習能力の向上に向けて」 等	“未来をひらく鳥取学”＜歴史・文化＞ 「古事記神話の舞台としての因幡と伯耆」 等 ＜産業＞ 「ウエカツ水産のあなたの魚食べる力がニッポンを救う」 等 ＜福祉・教育＞ 「鳥取の教育－教育郷土史－」 等 ＜国際化＞ 「世界とつながる鳥取県」 等 ＜自然・環境＞ 「ふるさとの風景が語りかけるもの」 「地球温暖化対策の枠組みと国際交渉」 等 ＜健康・生活＞ 「認知症の正しい理解と効果的な予防」 等 “生涯学習講座ビデオ” 「ワーク・ライフ・バランスシンポジウム～みんなで考えよう上手な時間の使い方～」 等	＜歴史＞ 「原始の大分」 「古代の大分～古墳時代～」 「中世の大分～室町時代～」 「尾平鉱山の盛衰」 等 ＜文化＞ 「大分の文学散歩Ⅰ～小説・随筆の世界」 「大分の記念物～国指定史跡廣瀬淡窓旧宅及び墓～」 等 ＜自然＞ 「大分の水生物～川編～」 「大分の大地と海～ふるさとの地質と地形」 「災害は忘れるひまなくやってくるⅠ」 等 ＜産業・暮らし＞ 「ロケット開発にかける情熱」 等 ＜健康＞ 「快眠と健康」 等 ＜国際理解＞ 「国際交流と多文化共生」 等	＜京都府発見講座＞ 「南山城の民俗」 「森上ミュージアム～一人の移民がつないだ縁」 「京の郷土料理」 等 ＜趣味の講座＞ 「花木を学ぶ」 等 ＜教養講座＞ 「博物館教育論」 「源氏物語」 等 ＜実学講座＞ 「ふるさと京都、夢・知恵・元氣わくわく塾～経営能力養成コース」 等 ＜スポーツ講座＞ 「スポーツ吹き矢」 等 ＜人間講座＞ 「子どもたちの育ちと女（男）らしさ」 等 ＜芸術講座＞ 「狂言再発見」 等 ＜生活講座＞ 「若者向け消費者啓発ミニドラマ ネットトラブル」 等
講座時間	30分	30分～90分	“未来をひらく鳥取学”：90分 “生涯学習講座ビデオ”：60分～180分	45分～90分	30分～90分
配信講座数	15講座（2012年度以前の講座は配信終了）	68講座	36講座	73講座	324講座（1講座を分割したものも含む）
スマートフォンでの視聴	可	不可	不可	可	不可
e-ラーニングオリジナルコンテンツ	有	有	無	無	有

	道民カレッジ「ほっかいどう学 大学インターネット講座」	あおもり県民カレッジ「あおもり学インターネット講座」	とっとり県民カレッジ「トリビー放送局」	おおいた学びの輪「インターネット教室」	京都府「インターネット放送局 生涯学習講座」
全体に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度まではテレビ（ほっかいどう放送）およびインターネットで受講する「ほっかいどう学 大学放送講座」として実施されていたが、2014年度よりインターネット配信のみとなった ・アナウンサーが聞き手となり、資料映像を交えながら講師が解説するスタジオ収録という形式に統一されている ・教材を販売している <p>2013年度配信講座↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講座ページに講師による講座の概要・補足等が掲載されている。また、講師より参考文献（3～7件）が提示されている <p>2014年度配信講座↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主画面と並行して文字・画像資料の画面も映される ・講座資料をPDFでダウンロードできる ・2014年度より、（公財）北海道紹介学習協会が主催する「ほっかいどう学 ネット検定」が開始された 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あおもり学特別講座」および「元気青森人 Power Up コンテンツ」は全講座、画面構成が統一されている（パワーポイントで作成された資料スライド、講義映像、講義内容の見出しとタイムテーブルの3画面） ・「あおもり学特別講座」はe-ラーニングの為に収録された対談形式のもの、あおもり県民カレッジ主催の公開講座を収録したものがある ・「元気青森人 Power Up コンテンツ」は、職業・起業・働き方に関する講座や、様々な分野の専門的な職業に就いている人、県内企業の経営者、企業で働く社員等が講師となり自分の経験や職業について講義するコンテンツを配信している 	<ul style="list-style-type: none"> ・“未来をひらく鳥取学”は年間10回開講される公開講座を収録したものを配信している ・全講座に字幕が付いている 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおいた学びの輪主催の公開講座“ふるさと学講座”を収録したものを配信している ・2010年度までは視聴に受講ID取得が必要であったが、2011年度より不要となった ・YouTubeを利用している ・2013年度までの配信講座はYouTubeの字幕機能が利用できる ・2014年度の配信講座は、動画中に講師の話す内容を簡潔に文字にまとめた画像や資料画像が数多く挿入されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座時間が60分を超えるものは、動画を2～5分割しているが、まとめて表示されない ・講師名、講師肩書、講座内容が記載されていない ・公開講座、講演会、シンポジウムを収録した講座は、講演会名、主催、収録日、収録場所が記載されていない

る。真の地方自治体のe-ラーニング講座として、その質と成果を保つために、これらは重要な要素であるといえることができる。

II. 京都府におけるe-ラーニングの変遷

既に筆者は2012年に「e-ラーニングを活用した成人学習の開発—京都府における生涯学習e-ラーニングの可能性—」において、地方自治体の一つである京都府のe-ラーニングの開発に

ついて研究し、論文としてまとめている。

今後の地方自治体の e-ラーニングの発展を考えることを目的とし、京都府の e-ラーニング「京都府『インターネット放送局 生涯学習講座』」を上記 4 地方自治体と比較分析し、考究する。

（1）立ち上げから第二段階まで

生涯学習の進展と充実を目指して国が生涯学習審議会を立ち上げたのと同じ1990年に、京都府もいち早く京都府生涯学習審議会を発足した。この京都府生涯学習審議会において、1996年5月には作業部会を立ち上げ、京都府全域における調査をもとに今後の生涯学習の充実に向けた計画をつくることとした。作業部会は、1997年3月に開催された第6回京都府生涯学習審議会において生涯学習機関・組織および生涯学習団体のネットワークを作る必要性を提示した。その後の継続的な調査の結果、作業部会は「生涯学習中核組織の設立」の報告書を作成し、1999年12月の第7回京都府生涯学習審議会において、その設立が承認された。

この報告書は、次の2点を強調している。第一に京都府は南北に長い自治体であること、さらに高等教育機関や他の教育に関わる組織・機関が南部に多く偏在していること。第二に、京都府内の各教育委員会、知事部局、さらに高等教育機関を含む教育機関・組織が連携を取らず学習機会を提供していること。この2点を鑑みると、北部にも平等に、かつ府全体に効率的に生涯学習機会を提供するためには、府内の教育機関・組織のネットワークを作る必要があるという提案である。この提案は、2002年11月25日に京都生涯学習推進ネットワークの発足という結果をもたらした。

京都生涯学習推進ネットワークは116の団体によって結成された。2013年7月現在は119でありその内訳は、府・市町村、各教育委員会等39、大学等45、専修学校各種学校等17、社会教育関係団体等12、民間カルチャーセンター等6である（表2）。

京都生涯学習推進ネットワークには生涯学習推進委員会が作られ、3つのプロジェクトを開始した。その1つが、高度情報化プロジェクトであり、e-ラーニングを活用した学習機会を提供するというものである。その他2つは、キャリア教育開発プロジェクトと評価認証プロジェクトである。

高度情報化プロジェクトの今日までの展開は、大きく四段階に分けることができる。まず最初の段階は、一方向性の生涯学習講座の配信である。第二段階は、一方向性に加えて双方向性の e-ラーニング塾の配信を始めたことである。第三段階はまた一方向性へともどり、第四段階はまったく新しい YouTube を使った双方向性となった。

2004年5月18日に高度情報プロジェクト委員会が発足し、第一段階の一方向性の学習講座配信の検討がなされた。その結果、まだ多くの府民が複雑なパソコンの操作に精通していないということから、様々な年齢層および、インターネットを通じた学習に不慣れな人々にも学習の

機会を提供するために以下の4点を含むプログラムを作ることとなった。

第一は、コンピューターのキー操作なしに画面を見て学べるようにすることである。第二は、第一のキー操作の使用を避けて、ビデオや、写真、解説を見たり聞いたり出来るようにすることである。第三は、リベラルアーツを中心としたプログラムを作ることである。第四は、面接授業を可能な限り取り入れたプログラムを作ること、すなわちブレンディッド学習を取り入れることである。

パイロットプロジェクトは、2004年7月10日から開始された。その後いくつかのパイロットプログラムを配信の後、京都生涯学習推進ネットワークは、2005年から2009年までに97のプログラムを配信した。1つのプログラムは10分～60分である。これらのプログラムは2009年においては以下の6つのカテゴリーに分類されている。

1. 地域・社会コース（3コース）
2. 教養・文化コース（54コース）
3. 技能・技術コース（7コース）
4. くらしと健康コース（20コース）
5. 環境・自然ふれあいコース（4コース）
6. スポーツ・体力づくりコース（10コース）

これらのコースは「生涯学習講座」と名付けられた。

その後、以下の8つのカテゴリーに分類されている。

1. 京都府発見講座（33コース）
2. 趣味の講座（2コース）
3. 教養講座（25コース）
4. 実学講座（15コース）
5. スポーツ講座（10コース）
6. 人間講座（9コース）
7. 芸術講座（6コース）
8. 生活講座（20コース）

インターネット放送局生涯学習講座は、2006年には財団法人高度映像情報センター（AVCC）から「公共ホームページ good site」に選出されている。

第二の段階は、2007年の双方向性の生涯学習講座の開始から始まる。そのほとんどは双方向性のインターネット講座に加えて、面接授業やフィールドトリップを加えたブレンディッド学習である。これらの講座には、登録が必要であり、一部料金を支払わなければならないものもあるが、ほとんどが無料で提供されている。

これらは「京都e-ラーニング塾」と名付けられた。2007年10月2日に京都府スポーツ生涯学習室が「健康トレーニングスクール」をパイロットコースとして配信した。クラスサイズは50～150である。その後のプログラムは大きく3つのグループに分けることができる。

まず第一グループは各ネットワークのメンバーである各市、各大学が提供する8つのコースである。

- [京都府（3コース）]
1. 「健康トレーニングスクールⅠ」 2007年10月2日～2007年10月31日、受講者47人、体育館における直接指導も行った、参加費500円
 2. 「健康トレーニングスクールⅡ」 2007年12月4日～2008年3月31日、受講者40人、無料
 3. 「古文書学入門」、2008年1月23日～2008年3月31日、受講者117人、面接授業の博物館入場料のみ有料

[宇治市（2コース）] 1.「e-ラーニング園芸」2007年10月18日～2008年2月29日，受講者159人，面接授業の博物館入場料のみ有料 2.「e-ラーニングで学ぶ宇治山城の民話」2008年3月4日～2008年3月31日，受講者121人，無料

[城陽市（1コース）] 1.「城陽の2万3000年の歴史」2007年11月1日～2008年3月31日，受講者数不明，無料

[京都文教大学・NPO 宇治市させやま（1コース）] 1.「e-ラーニングで学ぶ源氏物語—源氏の世界に関する4講座」2008年2月4日～2008年4月18日，受講者109人，スクーリング参加者50人，スクーリング料1500円

[田辺市（1コース）] 1.「田辺市の物語」2007年4月5日～2008年3月31日，受講者127人，無料

第二のグループは源氏物語に関する3コースである。2008年が源氏物語千年紀であることから，京都府は100万円を源氏物語に関する e-ラーニングに拠出した。3大学が中心となって，源氏物語に関するコースを作成した。費用の不足分は各大学が負担をしている。

1. 佛教大学，京都府（1コース）「e-ラーニングによる源氏物語「光源氏と紫式部」」2008年11月1日～2008年11月31日，e-ラーニング受講者225人，スクーリング参加者31人，3つの e-ラーニング授業と1つのスクーリング，スクーリングにおいては参加者は源氏物語ゆかりの地を訪問
2. 京都文教大学，NPO 町づくりネット宇治，京都府（1コース）「源氏物語のベストパーツ e-ラーニングで学ぶ宇治十条」2008年10月31日～2009年2月28日，e-ラーニング参加者231人，3つの e-ラーニング授業と一つのスクーリング，スクーリング参加者宇治39人 丹波20人，丹波（丹波の学習者はTV 会議システムによる参加），スクーリング受講料500円
3. 京都産業大学，NPO 町づくりネット宇治，京都府（1コース）「e-ラーニング「源氏物語—ベストセラーである秘密—」」2009年1月26日～2009年3月31日，受講者164人，3つの e-ラーニング授業のみ

第三のグループは京の郷土料理である。このプログラムを作るために，京・伝統文化継承ネットワークが組織された。文化の継承を目的とした3地域における郷土料理の紹介のプログラムである。各地域3品を婦人会会員が直接料理を作り紹介している。地域の風土・観光・歴史の紹介を加え，その郷土料理のいわれを明らかにしている。また，静止画において材料，作り方，栄養一覧表，効能を示すとともに，食物学専門の教授による解説ビデオも加えられている。単なる料理の紹介ではなく，地域文化の中における郷土料理を学ぶ講座である。

- 1.「京の郷土料理～与謝野町の手・山の寿司三種～」2010年8月5日～2011年1月31日，いさざを使った海の手寿司 焼きサバを使った山の寿司 ごぼうを使った巻き寿司の三種

2. 「京の郷土料理～美山町の伝統食三種～」2010年11月18日～2011年4月30日、鮎ご飯
みょうがとなすの酢みそ和え よん餅

3. 「京の郷土料理～宇治田原町の郷土料理～」2011年4月13日～2011年9月30日、うな
ぎ茶漬け ちゃめし ちゃじる

以上の3プログラムにおいては、プログラムごとに受講者の特性が顕著に表れている。

第一グループの8コースは総受講者は803人、登録者数（IDとパスワードを取得した者）は606人であった。男女の人数に大きな差はなかったが、60歳代が35%，70歳代が20%，さらに80歳以上が1%と高齢者が全体の6割近くを占めた。さらに50歳代18%，40歳代13%と続く。全体の77%が40歳以上である。

最も大きな特徴は、受講者の地域的偏りである。京都府南部に位置する山城地域の受講者は73.6%と他を大きく上回る。北部の丹後，中丹，南丹を合わせても1.5%にしかない。

第二グループの源氏物語3コースの特色は全コースにおいて、女性の受講者が、男性の受講者数を上回っていることである。年齢は3コースとも、50歳代60歳代が最も多い。また、年齢によって男女構成が異なっている。

上記第一グループである8コースと同様、この第二グループにおいても源氏物語の第一，第二，第三のコースとも北部地域の受講者は5%にも満たず，圧倒的に南部地域の受講者が多い。またこの源氏物語の受講者の地域分布は，第一のコースが山城地域41.3%，他府県25.8%，第二のコースが山城地域49.4%，他府県30.9%，第三のコースが山城地域58.5%，他府県25.0%であった。第一グループの8コースの他府県受講者は山城地域73.6%に対して10.4%に過ぎなかった。源氏物語3コースはよく知られた古典である点，および2008年が千年紀であったことから，他府県の受講者が多くを占めたと考えられる¹⁾。

第三の京の郷土料理は詳しいデータの報告がない。ただ2011年6月までの北部の受講者数は，与謝野町の「与謝野町の手・山の寿司三種」，美山町の「美山町の伝統食3種」とともに少ないとのみ報告を受けている。北部のコンテンツを配信した場合でも，北部の視聴者が少ないようである。

当初の目的は京都府北部の生涯学習の機会を増大するということであった。しかしながら，北部における視聴が十分でないという結果が出た。この目標は達成できていない。

第二段階における問題点は，第一に，ハード整備にある。北部地域においては有線テレビは充実しているが，インターネット特にブロードバンドへの接続は不十分である。また，若者のいない世帯は接続していないという状態である。筆者のe-ラーニング活用に関する調査「e-ラーニングを活用した成人学習の開発」において，北部と南部，さらに大学生を対象とした調査の結果，北部においては上記視聴データが示すように，住民がインターネットを活用する機会がなく，インターネットを活用する人達もインターネットを使って学習する意識に至っていないことが明らかになった²⁾。第二に，京都府のホームページのバナーの整理が出来ていず，ど

これからインターネット学習ができるか不明瞭な点、また京都府のプログラムを管理する部局がパナーの名称の変更、講座名称の変更を行ったことにより、アクセスが非常に困難となったことである。第三に、広報が不十分であったことである。担当部局が講座の価値をどれだけ認識していたか、また制作に関する関係委員会を開催し、議事録を公開し委員会の意見を反映する

表2 京都生涯学習推進ネットワーク 参画団体名簿

〔府・市町村等〕(37)

京都府市長会
京都府町村会
京都府市町村教育委員会連合会

綾部市	京都府教育委員会
宮津市	福知山市教育委員会
亀岡市	舞鶴市教育委員会
長岡京市	綾部市教育委員会
京田辺市	宇治市教育委員会
京丹後市	宮津市教育委員会
木津川市	亀岡市教育委員会
京丹波町	城陽市教育委員会
伊根町	向日市教育委員会
与謝野町	長岡京市教育委員会
	八幡市教育委員会
	京田辺市教育委員会
	京丹後市教育委員会
	南丹市教育委員会
	大山崎町教育委員会
	久御山町教育委員会
	井手町教育委員会
	宇治田原町教育委員会
	木津川市教育委員会
	精華町教育委員会
	京丹波町教育委員会
	伊根町教育委員会
	与謝野町教育委員会
	相楽東部広域連合 教育委員会

〔京都府〕(2)

京都府	京都府教育委員会
-----	----------

〔大学等〕(45)

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
池坊短期大学
大谷大学
大谷大学短期大学部
華頂短期大学
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都学園大学
京都華頂大学
京都教育大学 (10)
京都経済短期大学
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都工芸繊維大学
京都嵯峨芸術大学
京都嵯峨芸術大学短期大学部
京都産業大学
京都情報大学院大学
京都女子大学
京都市立芸術大学 (20)
京都精華大学
京都西山短期大学
京都造形芸術大学
京都大学
京都橘大学
京都ノートルダム女子大学
京都美術工芸大学
京都府立大学
京都府立医科大学
京都文教大学 (30)
京都文教短期大学
京都薬科大学
種智院大学
成美大学
成美大学短期大学部
聖母女学院短期大学
同志社女子大学
同志社大学
花園大学
佛教大学 (40)
平安女学院大学
舞鶴工業高等専門学校
明治国際医療大学
立命館大学
龍谷大学

〔専修学校各種学校等〕(17)

社団法人 京都府専修学校各種学校協会
池坊文化学院
裏千家学園茶道専門学校
大原簿記法律専門学校京都校
学校法人大和学園
京都YMCA国際福祉専門学校
京都外国語専門学校
京都建築専門学校
京都建築大学校
京都コンピュータ学院
京都伝統工芸大学校
京都動物専門学校
京都美容専門学校
京都理容美容専修学校
京都料理専修学校
有樹和裁専修学校
(専)Y I C 京都工科大学校

〔社会教育関係団体等〕(12)

京都市PTA連絡協議会
京都府PTA協議会
京都府公民館連絡協議会
京都府生涯学習文化施設 ボランティア連絡会
京都府男女共同参画センター
京都府図書館等連絡協議会
京都府立高等学校PTA連合会
京都府連合婦人会
公益財団法人京都SKYセンター
財団法人京都府少年教育振興会
特定非営利活動法人 きょうとNPOセンター
京都市地域女性連合会

〔民間カルチャー等〕(6)

京都民間カルチャー事業協議会
朝日カルチャーセンター・京都
NHK京都文化センター
京都新聞文化センター
(株)京都放送カルチャーセンター
メルパルク京都カルチャールーム

参画団体 合計 119団体
(平成25年7月1日現在)

(出所) 京都府文化環境部文化政策課「京都生涯学習推進ネットワーク 参画団体名簿」
(<http://www.pref.kyoto.jp/bunsei/documents/dantaimeibo201307.pdf>, 2014年12月1日閲覧)

よう効率的な運営がされていたかが疑われる。第四は、e-ラーニングの活用場の創出である。2004年度はJRの舞鶴駅で、学習者が集まって大画面のモニターで数回学習した後、同じ講座の講師を招いてのブレンディッド学習をすることなどが実施されていた。しかし、その後継続して実施されていない。このように、インターネット活用に不慣れな人々に対する学習支援が不十分であったことが挙げられる。

(2) 第三段階

その後、京都府から双方向性のシステムの活用が不可能という発表があり、突如一方方向性となることとなった。2011年度までは質の高い充実した講座が配信されていたが、2012年度からは60分間講師の話のみで資料や画像がないもの、カメラアングルが悪く受講者の後ろ姿の間から講師が見えているもの等が増え始めた。また、2013年度からは固定カメラのロングショットで講師の顔すら見えないもの、カメラで撮影したパワーポイントのため不鮮明で読めないもの等が増え始めた。これらは組織改編によりスポーツ・生涯学習室が無くなり、文化環境部スポーツ振興課・文化政策課における生涯学習の担当者へのみの作業になったこと、および上層部より予算の裏打ちのないまま提供数を大幅に増やせとの指示があったためと思われる。

2014年度は京都府の緊急雇用対策事業を使い、G 研究所という NPO 法人に制作を依頼し、数を増やすことに努めた。その結果、提出された講座は公開講座を単に望遠で録画したものであり、画像、音声、内容すべてにおいて問題の有るものばかりとなった。2014年時点での講座数は324講座（一つの講座を分割したものも含む）と多くなったものの、数だけ増えて質は大幅に低下した。

2014年度社会教育に関する講座を受講している大学生29名が「京都『インターネット放送局 生涯学習講座』と「道民カレッジ『ほっかいどう学』大学インターネット講座」を視聴した結果をまとめたものが表3である。講座の提示の仕方および内容において質の低下が明らかになった。

以上のように第三段階においては、量的増加に反して極度の質の低下がみられることとなった。これらの原因として考えられるのは、第一に担当部局が教育委員会ではなく社会教育主事資格をもたない者が担当するようになり、社会教育または生涯学習の知識が反映されないこと、第二に担当者が変わると共に最初に打ち立てられた方針や目的等が継続されなかったこと、第三に当初に開設されたプログラム会議が開催されていないこと、第四に運営主体が不明瞭であり、単に担当職員が実施し、内容の評価を求める委員会の声を反映することができない状態であったことが挙げられる。これらすべてに通ずるものとして、京都府としての方針が生涯学習重視の方向に進まなかったことが考えられる。

表3 京都府「インターネット放送局 生涯学習講座」と北海道「道民カレッジ『ほっかいどう学 大学インターネット講座』」の視聴比較

	京都府「インターネット放送局 生涯学習講座」	北海道「道民カレッジ『ほっかいどう学 大学インターネット講座』」
トップページ	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象が悪い ・配色が悪い ・配置が悪い ・リンクが多過ぎて何がどこにあるのかわからない ・活動内容を示したページが2010年から更新されておらず本当に活動をしているのか不信感を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リンクがわかりやすく配置されていて見やすい ・メニュー表示が整理されている
スマートフォンでの視聴	不可	可
講座一覧ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・講師名が示されていない ・動画の数が多すぎて、この中から選ぶという気持ちにならない ・動画数のみ重視しているのか、何を一番すすめたいのかが伝わらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルにまとめられており見たい講座をすぐに見つけられる
講座視聴ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴できない動画がある ・講座内容の説明がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座がしっかりと絞られており、量より質を重視している ・アナウンサーを起用したり、ニュース番組のようなセットにするなど工夫が見られる ・対話形式の講義動画と並行して資料画像も映し出されるので、内容をしっかり理解できる ・講座資料が PDF でダウンロードできる ・取材後記として、講座内容の詳細や担当者の感想、講座の参考文献が示されている
SNS	無	有（Twitter）
全体に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・受講対象者が不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀レポートの掲載は学習意欲の向上に繋がる ・2013年度のレポート提出状況を見ると毎回一定した数が提出されているので、一度視聴した人がリピーターとなっていると考えられる ・レポートの書き方の勉強会が行われており、講座を配信するだけでなく学習内容を定着させるサポートが行われている ・出前講座や補助教材販売があるので、学校教育の場で取り入れるなど生涯学習の拡大に繋がる ・「ミニ・パブリックス」の講座は市民が参加できる形をとっている ・バックナンバーとしてこれまでの講座一覧が記載されており、道民カレッジ事務局で DVD で視聴できる

回答者：京都市内私立大学 社会教育に関する受講生 29名
(2014年12月12日視聴)

(3) 第四段階

2015年からは大改革が行われ、YouTube の活用およびネットによるクイズ等が設けられることとなった。ただ、問題は山積している。第一に、講師名・講師肩書・講座内容が記載されていないこと。第二に、公開講座・講演会・シンポジウムを収録した講座は、講演会名・主催・収録日・収録場所を明らかにする必要があるにもかかわらず記載がないこと。第三に、「京都府発見講座コース」の動画55件はすべて「文化・芸術・歴史講座コース」の動画と重複し、「自然・環境講座コース」の動画11件の内10件は「文化・芸術・歴史講座コース」の動画と重複しているため、系統立てた学習や学習内容の関連付けが困難であること。第四に「京都木屋町・河原町 ぶらり散歩」「伏見散策」「京都 舞鶴」「伊根町紹介」等は観光案内の動画であり、アカデミックな内容とは言えないこと。第五に、以前に配信していた「京の郷土料理」「源氏物語」等良質なオリジナル動画が削除されていること等である。これらの問題を解決すべく、現在、担当職員の努力で改正が進められている。

上述の4自治体に見られる特色と比較すると、第一の運営主体が教育関係組織であること、第二の知事を学長とした大学形式であること、第四の大学に模した単位授与および顕彰方法が実施されていることは、京都府「インターネット放送局 生涯学習講座」には当てはまらない。第三の自治体ならではのコンテンツの配信は実施している。しかしながらレポートによる評価をするところまでは至っていない。これらは今後の質を維持するための課題といえることができる。

これらの基本として、生涯学習を位置付け、その展開の根幹となる生涯学習計画である「京都府 OWN プラン」が1994年に作られたままであり、この生涯学習の定義自体が課題であるといえることができる。

地方自治体の e-ラーニングの推進は地方自治体の生涯学習に関する哲学と施策、それにより影響される講座の仕組みづくりと担当組織のあり方が反映される。地方自治体の生涯学習 e-ラーニングは、まだ緒に就いたばかりといえる。今後それぞれが積み上げてきた成果を活かし、生涯学習社会創りを牽引することを期待する。

注

- (1) Nishioka, Shoko. "Adult e-Learning: Development of two-way and blended learning courses in Kyoto" *Proceedings of the 2008 CIAE Pre-Conference, American Association for Adult and Continuing Education* (2008).
- (2) 西岡正子「e-ラーニングを活用した成人学習の開発」(『佛教大学教育学部論集』第23号, 2012年): 53-72。

〔参考文献〕

西岡正子 "Appraisal of Regional Adult E-Learning Provision in Kyoto" (『佛教大学教育学部論集』第21

号，2010年）：57-71。
総務省「通信利用動向調査「世帯編」」，特定非営利活動法人日本イーラーニングコソシアム編『e-ラーニング 白書2008/2009年版』（東京電気大学出版会， 2008年）。
OECD 編著・立田慶裕監訳『世界の生涯学習—成人学習の促進に向けて—』，明石書店，2010年。

（にしおか しょうこ 研究員／佛教大学教育学部教授）